

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300027		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1246-1		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kanji=true&JiyosyoCd=2173300027-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方も地域の一員として共に生活していきたい。その為に地域との関わり、病院、老人福祉施設の温泉利用 中学生、高校生との触れ合いをしている 地元の飲食店での外食等ご家族の協力をお願いしながら叶えている。定期的なボランティアとの触れ合いを楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、もともと民家を改良した建物であったが、防火対策や建材の取り替え、冷暖房装置の増設等大幅な工事を行い、快適な構造に改修している。利用者の高齢化が進み、一律のサービスが難しい中でも、できるだけ外出の機会をつくり、温泉や外食等へ継続して出かけている。飲料会社が募集する「俳句」に利用者職員で、3年間で100句応募し、今回初めて一句が佳作となり、うれしい話題となっている。また、昔懐かしい民具を借りてきて、利用者昔を回顧する取り組みも始めている。管理者・職員は、利用者が生まれ育った地域の思い出を大切に、日々豊かな暮らしが送れるように、熱意を持って支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、どんなに老いてもやりたい事、叶えたい事がある 内部研修等で職員の意識を高め実践できる様に努めている	生まれ育った地域との関係を大切に「残された時間を自分らしく楽しく過せるように」との理念の基に、毎日確認しながら支援をしている。利用者の思いや、やりたいことを引き出し、その人らしい暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や職場体験時のお誘い、近隣の方も常にホームの入居者の方を気遣ってくれ 季節折々の野菜や花を届けて下さる その都度お茶を飲みながら語らう事が出来る	地域の住人や子ども達が気楽に立ち寄り、親密に交流している。小中学生の職場体験、ボランティアとの交流も盛んである。近くの企業からは、何時でも協力が得られる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居の方の訪問を呼びかけたり、職場体験の生徒や先生との交流を楽しんでいる。修理に来てくれる地元の業者さんとの会話も楽しんでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の意見やご家族の思い(介護タクシーの話等)出た意見を職員全員で話し合いサービス向上に向けている	会議は、隔月に開催している。行政・民生委員・家族が参加し、意見交換をしている。過疎地に対応した介護タクシーの必要性等を話し合い、行政へ働きかけをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席時、その都度困っている事等相談 意見を貰っている ホームに役立つような情報(民具やレク道具)を貰っている	運営推進会議に出席した担当者に、ホームの実情を報告している。高齢者に向けた昔懐かしい民具の貸し出し制度の活用等で、情報ももらっている。事故や退居者については速やかに報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きの読み合わせをしながら身体拘束とはの勉強会をしている 緊急やむを得ない状況の時は家族と十分話し合っって同意書を貰っている 玄関の施錠は日中は行わず自由に外に出られる様にしている	拘束ゼロに向けて、定期的に勉強会を行っている。安全上やむを得ない場合は、家族と十分に話し合い、対応している。屋外へは、自由に出て行けるように、開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは 等の内部研修を常に行っている 慣れ合いによる言葉かけの注意をお互いに行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適応の方が見えないので職員の理解は十分ではないが資料の読み合わせをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分時間をかけ説明し納得して契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者の方の小さな要望も聞き逃さない様にしている 運営推進会議の場も利用してご家族の要望等聞いている	家族の訪問時や、電話で意見を聞いているが、本人・家族からは、ホームでの生活に満足しているとの声がほとんどで要望等は出てこない。職員は、小さな要望も聞き逃がさないように、また、引き出すように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は定期的に訪れ職員の意見を聞いている 月1度の全体ミーティングや小ミーティングで意見や提案を聞き、代表に伝えている	代表者は、月例の全体会議で、意見提案を聞いている。今年度は、熱中症や暑さ対策、冷房設備の増設などの提案があり、速やかに改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人研修や資格取得に向けて情報開示したり研修の為の時間のやりくりをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を付ける為の資格取得の為の時間の確保 必要経費も認めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への出席 ケアマネ会議出席等、交流情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やアセスメントの有無だけでなく本人と接しながら不安や要望等に耳を傾け安心出来る雰囲気を作る様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の一番困っている事、問題と捉えている事を十分聞き取る様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が何を希望しているのか、必要なかをよく聞き取り対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事(掃除や食器洗い等)を職員と共に行い同じ空間で生活するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等をご家族に伝え叶えられる様働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が気軽に立ち寄れる場所になっている 馴染みの美容院や病院受診等ご家族や地元のタクシー会社の協力を得て関係が途切れない様にしている	近所の方が気楽に訪れ、馴染みの関係を深めている。かかりつけ病院への受診、行きつけの美容院や墓参り等へ家族と共に出かけている。近くの「道の駅」へは、職員と共に出かけ、知人・友人と出会う機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくみんなと交わる事が出来る様席決め等している どうしても相性の合わない方同士は職員がさり気なく間に入る様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入られてもご家族や病院の先生から情報を貰っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが毎日役割や楽しみを持てるよう心がけている 様子を介護記録に残し職員全員が思いを分かる様にしている	日々の生活の中で、行動や表情を見ながら、個々の思いを汲み取っている。一人ひとりの能力を活かし、やりたいことを受け入れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室に馴染みの物や写真等を持ち込んでもらっている 花好きな方や仏壇のある方には庭の花を自分で切って飾る様声掛けしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族、本人から生活環境、生活歴等の情報を得ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を日課表に記録、モニタリング用紙を活用し職員間で意見交換し現状に適した介護計画を作成している	毎日モニタリングを行い、職員間で意見を交換している。介護支援専門員が、本人・家族と直接話し合い、現状に即し、本人本位の暮らしやすい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきや変化、工夫等を記録し職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリング用紙を活用し小さなニーズも把握、検討している		

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での暮らしが安心して続けられる様消防署、民生委員の協力、温泉入浴券・タクシー助成券の利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の主治医の往診をうけている 主治医は入居者の話を丁寧に聞いてくれる 急変時の協力医の相談が受けられる様にしている	月に1回、協力医(市民病院医師)の往診があり、全員が受診している。眼科や整形外科等への通院は、家族と一緒に職員が同行したり、場合により、職員が付添いを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2名勤務しているので細かな事も報告・相談している 必要時は家族に報告・相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護師が付き添い、状況説明をしている 病院の連携室と連絡を取りながら入退院がスムーズに行くよう協力をお願いしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行わない事と重度化した場合の説明をしている 入院時の病院の説明は家族が聞く様になっている 入院中は病院の連携室と連絡を取っている	契約時に、重度化・終末期の方針を、本人・家族に説明している。ホームでの生活が困難になれば、他の機関に移ることにしている。入居時に、受け入れ先の特別養護老人ホームへの入所申し込みを済ませている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による定期的な救命救急指導を受けている 初期対応も内部研修で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会で定期的な避難訓練を受けている 指導を受けた事柄の依頼を近所をお願いしている 緊急時には近所の方の協力を得られるよう確約している 家族にも避難訓練の参加をお願いしている	年に2回、消防署の立会いで避難誘導、通報、初期消火等の訓練を行っている。地域の関係者から協力を得られる体制を築いている。備蓄も整えている。職員は、夜間、重度者の避難対応に不安を感じている。	夜間を想定した訓練を行い、重度者(車椅子)の避難誘導の手順を、職員間で周知徹底することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその人らしい尊厳ある姿を大切にしている 誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ、対応をしていないか常に気を付けている その為の勉強会をしている	一人ひとりを尊重する態度や言葉かけを行っている。排泄や入浴時には羞恥心に配慮し、誇りを損ねないように対応している。利用者の権利を守る基本を、全職員で実践できることが課題である。	接遇のマニュアルに沿った、勉強会の継続に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し自ら選択出来るような声かけをしている 誕生日会は本人の希望(食事や過ごし方)を出来るだけ取り入れている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、心身状況に合わせてやりたい事を無理のない様にして過せるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と相談し本人の好むように家族の協力を得ながら行っている 例えば、美容院や温泉、外食など		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所から頂く山菜や野菜の下処理をしながら入居者の方が作った料理の仕方を教えて貰ったりしている 後片付け等職員と協力して行っている	食材の準備から片付けまでを、利用者も、楽しく、自発的に行っている。職員もテーブルを囲み、同じ食事を摂り、ゆっくり時間を掛けながら、楽しい話題で盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量はバイタル表で確認出来る様になっている 水分摂取が出来る様に声かけと麦茶の用意をしている 往診医に相談しスポーツドリンクの利点を教わって準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声掛け 定期的にポリドントをしている 治療が必要な時は受診や往診で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	其々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来る様声掛け、誘導している	全職員が、排泄パターンを周知し、さり気なく声をかけ、トイレでの排泄につなげている。失禁の自覚のない人には、早めにトイレへ誘導している。パットの当て方を工夫し、おむつの使用量の軽減に効果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し水分摂取や牛乳、ヨーグルト等飲んで貰っている 歩く事や体操の大事さを伝え体を動かす様にしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番などなるべく希望に添うようにしている 入浴時は色々会話を楽しみ、出来る事は自分でして貰うようにしている	週に2回の入浴日があるが、汚れた場合には、何時でも入浴できる体制である。入浴の順番は、表で分かりやすく納得できるように工夫し、相性の良い職員が介助を担当し、会話を楽しく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を保つ為パジャマやシーツ交換、布団干し等をしている 部屋の温度管理も気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の前後に看護師より其々の薬や医師の指示の説明を受けている 飲み忘れや誤薬を防ぐ為の取り組みをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す、畳む 食器を洗う 掃除をする 草むしりをする、其々職員と楽しみながら行っている 季節を感じる様にその時期の行事やレクを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や気候に合わせて散歩、温泉に行っている 花見や外食等も地元のタクシー会社に協力をお願いしながら行っている	ホームの周辺を、毎日散策している。車椅子の人は、庭に出て、心地よく外気に触れている。温泉や花見、外食等へ、職員と一緒に出かけている。美容院や病院受診は、家族が担っている。	

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金は持たない様にしているが、現金を手元に欲しい方は家族の了解の上で少額を持っている機会は少ないが買い物に出かけた時は本人に会計をして貰う事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や貰った手紙の返事が書けるように声かけをしている 葉書や手紙にも手作りのしおりなど入れる様にしている 電話は家族の意向も聞き、希望があれば子機を渡す様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花好きな方が多いので随時花を飾っている 廊下にはソファを置き自由に座って貰うようにしている 庭には好きな時出て貰う様椅子を置いている	ホームの周辺で育った季節の花を、目線の要所に飾っている。利用者の写真集、貼り絵、書、俳句などの作品が掲示してある。カラオケルームには、長いソファに色合いのクッションを敷き、楽しく過ごしてもらっている。室温や湿度を適切に管理し、快適な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下にソファを置いたり畳スペースは自由に腰掛けられる様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小さな仏壇を本人の希望通り置いている 花も庭に咲いてるものを備えている	居室には、使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んでもらっている。それらを繁雑にならないように配置し、落ち着いた居室になっている。どの部屋にも、季節の花を備え、気持ちが和み、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたりゴミ箱を側に置いたり状況に合わせて椅子を重い物に変えたりしている		